

## 『おばあちゃんの遺言』

『どんな大変な時にも人には親切にしてください。それが巡り巡って自分に返ってくるのだから』 100歳で亡くなったおばあちゃんの遺言です。

これから語る物語は、おばあちゃんの本当のお話です。

日本が戦争に負けた時、おばあちゃんは幼い息子を抱え中国にいました。「このままここで死ぬのだ」と思っていた時、道ばたで泣いている中国人の女性に出会いました。わけを聞くとその場に一緒にいたお母さんが亡くなったとのこと。おばあちゃんは最後の財産であった着物を亡くなった方にかけてあげました。

女性は涙を流して喜び、生き延びるためのある知恵を授けてくれました。「今度港にアメリカの船が入るから、そこで日用品を売ってください」と。おばあちゃんは、そうしてお金を作り日本に帰ってくることができました。船で商売をしている間も、たくさんのアメリカ人に助けられたそうです。「戦争は憎いけれど、アメリカ人は憎くないよ」といつも話していました。



おばあちゃんが連れていた幼い息子は、私のお父さん。

おばあちゃんが戦争の惨状の中でも失わなかった思いやりが命を繋ぎ、こうして私はこの物語を語る事ができています。大正・昭和・平成・令和を生き抜いた見事な人生でした。

『どんな大変な時にも人には親切にしてください。それが巡り巡って自分に返ってくるのだから』

これはおばあちゃんの遺言でもあり口癖でした。この言葉は、おばあちゃんが人生をかけた、私たちへの「今でも生きている贈りもの」です。



原作：犬好きのM

挿絵：尚

編集：スマイル

制作：令和4年8月17日